

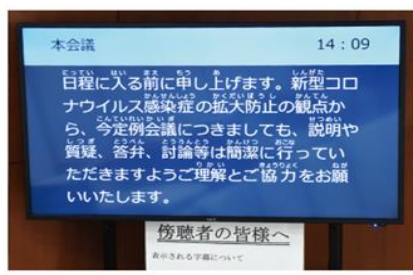
事業概要 【デジタル技術の活用による議会傍聴環境バリアフリー化事業】

事業概要

議会に対する市民の関心や理解を高めるためには、情報技術の発達を踏まえた多様な広報手段を活用した情報発信が必要不可欠である。市民に「より開かれた議会の実現」のため、音声認識表示ソフトと一体的な議会運営システムの導入及び本会議場・傍聴席等に字幕表示モニターを設置し、リアルタイムでの字幕表示を行うことにより、可視化された情報を難聴者やライブ中継視聴者等へ発信し、議会傍聴環境のバリアフリー化を図る。

具体サービス

- 【本会議場傍聴席等字幕表示サービス】
- 難聴者や聞き取りにくい高齢者が、本会議内容を知るのは閉会后約3カ月後の会議録調製以降と、大きなタイムラグがある。また、令和6年6月以降、議場システムの不具合で、映像配信を行えない、採決結果が表示されないなど、傍聴者、中継視聴者から苦言を受けている。その他、市民の関心が最も高い議員ごとの賛否結果の表示、色合いが見えにくい、音量の関係で議論が聞き取りにくいとの意見も多数受けている。
 - 以上の課題解消のため、本会議場、傍聴席等に字幕表示モニターを設置し、議場での発言をリアルタイムかつ、より正確に可視化することができる音声認識表示ソフトを活用した字幕表示を行うことで、難聴者や聞き取りが難しい高齢者、色弱者及びライブ中継視聴者等への議会傍聴・視聴環境のバリアフリー化を図り、より分かりやすく、より多くの市民に開かれた情報提供を安定的に行う。



◀ 音声表示モニター① (イメージ)



◀ 音声表示モニター②
・インターネット配信 (イメージ)



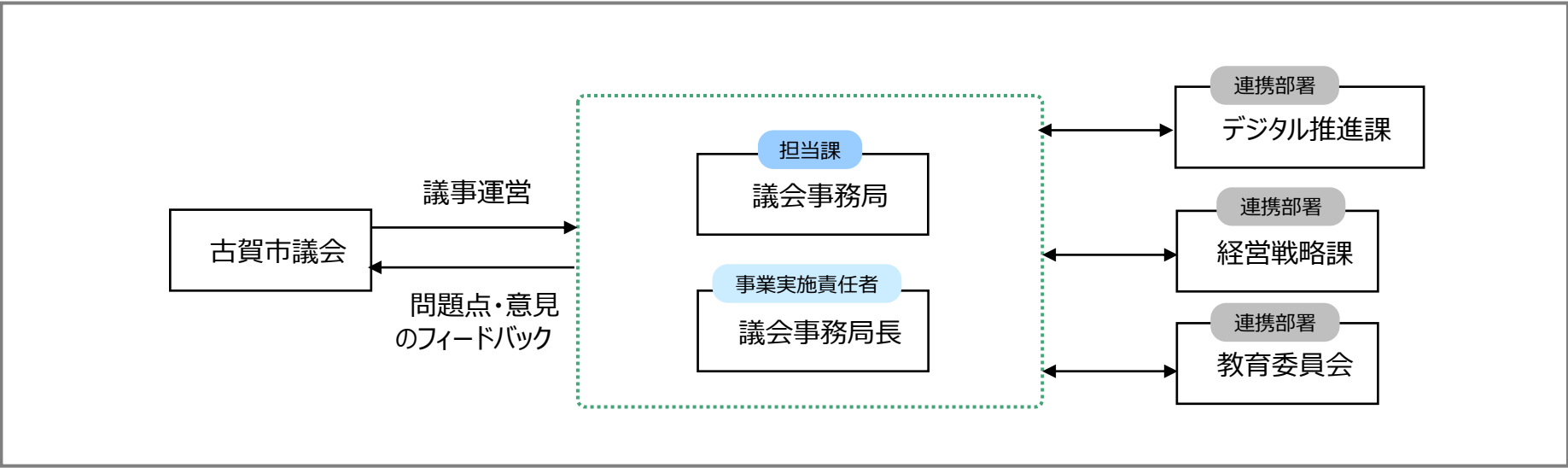
◀ 音声認識表示ソフト、音響・映像操作端末 (イメージ)

主な KPI

- 【アウトプット指標（活動指標）】
- ①本会議の年間傍聴者数
 - ②本会議のライブ中継年間アクセス数

- 【アウトカム指標（成果指標）】
- ①字幕表示モニター設置に対する満足度
 - ②ライブ中継に対する満足度
 - ③実装された各機能や見やすさに対する満足度

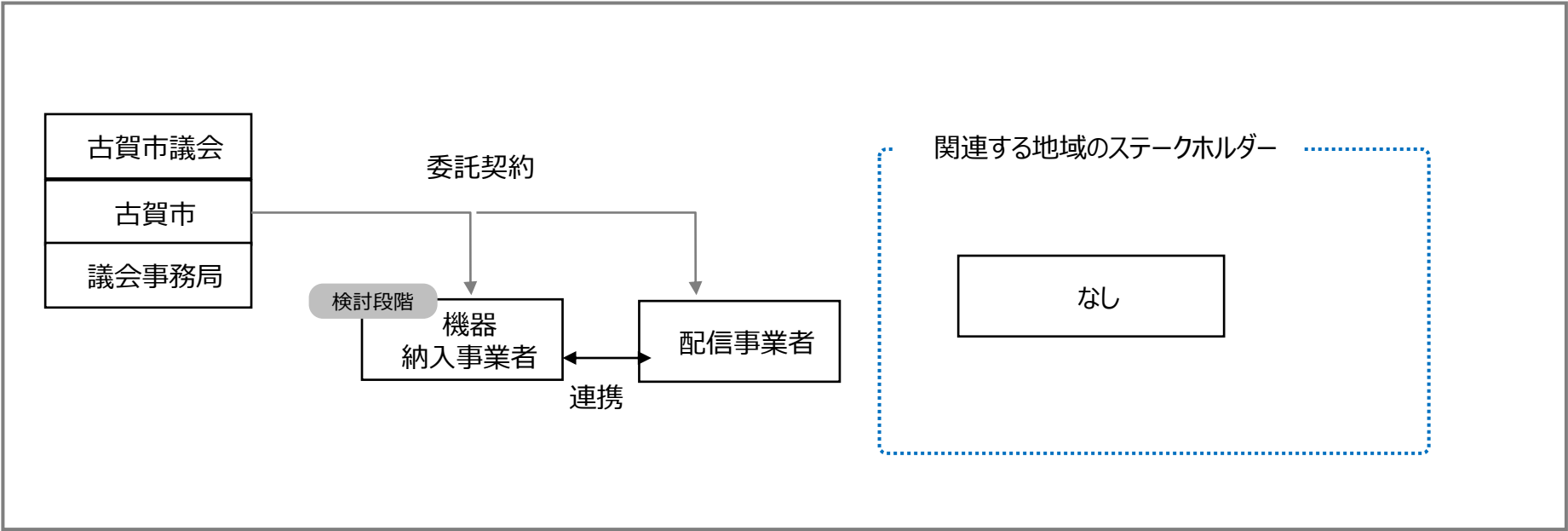
■ 庁内の推進体制



【各課室の役割】

役割	名称	具体的な業務内容
議事運営主体	古賀市議会	・ 議事運営、議会広報の作成
事業実施責任者	議会事務局長	・ 事業全体のマネージメント・進捗管理
事業担当課	議会事務局	・ 機器等の調達、納入事業者・連携部署との調整、業務フローの検討、HP等での情報発信、アンケート実施
連携部署	教育委員会	・ 子ども議場体験会担当
連携部署	デジタル推進課	・ D X 担当
連携部署	経営戦略課	・ 交付金申請担当、HP情報管理担当、評価実施

■ 事業推進体制



名称	役割
古賀市議会	議事運営 問題点・意見のフィードバック
古賀市	契約 予算執行 アンケート実施
議会事務局	事業計画の立案 報告書作成をはじめとする事業全般の管理・統括業務
機器 納入事業者	システム構築、機器納入・設置、保守業務

名称	役割
配信事業者	インターネット映像配信